令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	1	4	土地改良費	262

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	土地改良施設（用水路・ため池等）の機能を確保するため、適正に維持管理する。
事業内容	●事業の全体計画 ・土地改良施設（用水路・ため池等）を適正に維持管理する。 ●主な決算の内訳 〇土地改良（排水）事務 ・電気料金（ポンプ場、転倒堰）　759,381円 ・ほ場整備確定測量成果データ化業務委託　1,023,000円 ・濃尾用水地区用排水対策協議会負担金　2,000円 ・尾張西部排水対策推進協議会負担金　10,000円 〇土地改良（排水）施設管理 ・揚水機場保守点検委託（一本杉ポンプ場外4箇所）　550,000円 ・堰、ゲート保守点検委託　517,330円 ・土地改良施設維持管理委託（土砂撤去、除草、雑木撤去等）　10件　1,951,400円 ・ため池草刈等業務委託（地元団体へ委託）　26件　4,709,000円 ・ため池等調査業務委託　924,000円 ・土地改良施設維持工事（地元要望等による工事）　43件　10,996,650円 ・木津用水排水負担金　8,081,000円 ・木津用水路汚水処理施設維持管理費負担金　7,032,000円 ・入鹿用水土地改良区施設維持管理負担金　4,928,545円 〇農村自然環境施設管理 ・公衆便所清掃保守委託（中島池東公衆トイレ清掃、循環排水利用装置保守）　602,030円 ・農村自然環境整備事業造成施設維持管理業務委託（中島池ビオトープ）　902,000円
事業の 成果・効果	土地改良施設（用水路・ため池等）の点検業務、土木要望に基づく修繕工事、除草、浚渫を実施するなど、適正に維持管理を行った。

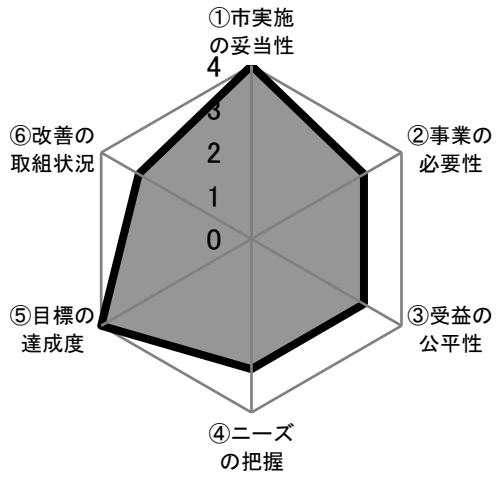
Ⅱ：個別事業内訳　（単位：千円）　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
土地改良（排水）事務	1,815	160	1,655	91%	3	3	3
土地改良（排水）施設管理	40,039	0	40,039	100%	3	3	3
農村自然環境施設管理	1,622	0	1,622	100%	3	3	3
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	43,476	160	43,316	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		39,328	43,476	43,648
財源内訳	国県支出金	101	108	112
	地方債	0	0	0
	その他	45	52	40
	一般財源	39,182	43,316	43,496
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	犬山市法定外公共用物の管理に関する条例第２条の規定により、市が行う。
②事業の必要性	3	農業用排水路やため池は、地域排水路や洪水調整池としての機能も有しており、農業従事者のみならず、市民生活の安心・安全にも寄与する事業であり優先度は高いと考える。
③受益の公平性	3	農業従事者のみならず、農業用排水路やため池は、地域排水路や洪水調整池としての機能も有しており、その効果は広範囲に及ぶ。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出される土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	危険箇所や事業効果が高いと思われる土木要望を優先的に実施した。 水路関係の要望実施率は約50%であり、当初目標値40%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	整備された中島池周辺遊歩道を含め、中島池ビオトープ施設も環境課で一括管理するため、令和３年度から「農村自然環境施設管理」事業は環境課に移行
令和３年度に見直しを実施している事項	農業用ため池の現状に応じた整備計画の見直し
今後見直しを検討する事項	農業用ため池の現状に応じた整備計画の見直し

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
農業従事者の高齢化等により、農業用排水路の日常管理（清掃・除草等）が難しくなっている。	張コンクリート・防草シート等による雑草繁茂抑制対策を実施する。 ボランティア活動への支援の在り方を継続的に検討する。

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	2	1	林業振興費	264

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	林道管理
事業目的	林道を適正に維持管理する。
事業内容	●事業の全体計画 ・林道の通行に支障が無いよう維持修繕等を行う。 ●決算の内訳 ・林道維持修繕工事　1件　　91,300円
事業の 成果・効果	林道の路面補修を行うなど、通行に支障が無いよう維持管理することができた。

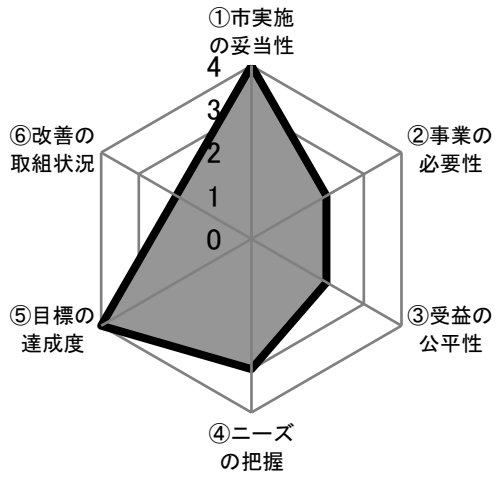
Ⅱ：個別事業内訳　　（単位：千円）　　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
林道管理	92	0	92	100%	2	2	2
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	92	0	92	100%	2	2	2

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		50	92	133
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	50	92	133
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	林道管理規程第５条に定める管理者である市が実施する。
②事業の必要性	2	林道の維持管理を行っていく上で事業の継続は必須であるが、非常時においては、要望等の事業は縮小も止むを得ない事業である。
③受益の公平性	2	林道の利用者は限られているが、森林の持つ多面的な機能は、市民の生活環境向上に寄与している。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出していただく土木要望により、利用者の要望（ニーズ）の把握に努めている。
⑤目標の達成度	4	通行の支障とならないよう、道路パトロールや土木要望等による路面補修等を適時行っている。台風等による被災箇所については、災害復旧事業で対応している。
⑥改善の取組状況	2	現在の利用状況を鑑み、必要最小限の維持管理としており、災害復旧以外の整備等は考えていない。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	特になし
令和３年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	特になし

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
利用者が多くないため、損傷箇所の発見が遅れる。	地元役員と連携し、早期発見に努める。

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	1	1	土木総務費	278

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	土木管理事務
事業目的	土木施設（道路及びその付属施設等）の継続的な維持管理を適切かつ効果的に実施する。
事業内容	●事業の全体計画 ・土木施設（道路及びその付属施設等）の継続的な維持管理を適切かつ効果的に実施する。 ●主な決算の内訳 〇土木管理事務 ・報酬費　土木常設員４４名分の報酬　1,364,000円 地元の土木要望（土木事業及び治水事業）等、市と市民の連絡調整役 ・光熱水費　電気料金（街路灯、道路照明灯、観光街路灯等）　16,221,846円 ・役務費　火災保険料（道路管理賠償責任保険料）　963,880円 ・委託料　測量登記委託料（道路内民地処理、道路水路境界確定）　6,764,312円 道路台帳更新委託料（道路台帳デジタルデータ等年度更新）　8,140,000円 道路法第２８条に基づく道路台帳整備 ・公有財産購入費（道路、水路用地等）　4,055,234円 ・ライン大橋管理組合負担金　500,000円 犬山市、各務原市で管理に要する経費を1/2ずつ負担 〇公開型GISシステム構築 ・道路情報等公開型GISシステム構築委託料　3,608,000円 システム設定、データ変換・搭載、ポータルサイト作成等 〇内田西排水路関連事務 ・用地調査測量　7,742,858円 ・区分地上権設定登記補償金　37,339,328円
事業の成果・効果	・道路、水路等の占用・承認工事等の各種許認可申請の処理、道路台帳の更新、官民境界確定、道路内民地処理等を適正に実施している。 ・ライン大橋管理組合としてライン大橋及び管理橋の日常点検等を行い適切に管理ができている。 ・犬山市地図情報ポータルサイト「わんマップ」を構築し、道路台帳情報を公開型GISによってWEB上で公開した。 ・内田西排水路の保全のための区分地上権設定登記が完了した。

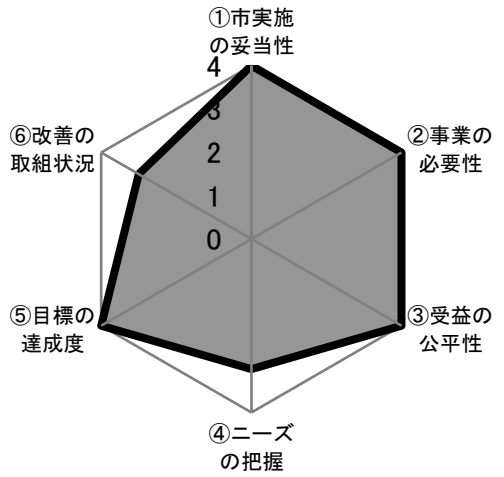
Ⅱ：個別事業内訳　（単位：千円）　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
土木管理事務	39,323	34,781	4,542	12%	3	3	4
公開型GISシステム構築	3,652	0	3,652	100%	4	4	4
内田西排水路関連事務	45,579	27,000	18,579	41%	4	4	4
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	88,554	61,781	26,773	30%	3	3	4

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		41,078	88,554	67,753
財源内訳	国県支出金	1,045	0	850
	地方債	0	27,000	0
	その他	29,501	34,781	34,000
	一般財源	10,532	26,773	32,903
一般財源の割合		26%	30%	49%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市道の管理については、道路法第１６条により市が実施することとなる。
②事業の必要性	4	道路・水路等の維持管理には用地の適正管理が必要不可欠である。
③受益の公平性	4	公共用財産である道路・水路等を適正に管理するための測量・境界確定は市民の財産を保全する役割を有している。
④ニーズの把握	3	道路・水路等の改善・修繕について地元（市民）からの要望を把握している。
⑤目標の達成度	4	１年間の業務としては達成している。
⑥改善の取組状況	3	公開型GISを用いて道路台帳情報をWEB上で公開することにより、ユーザーの利便性、事務の効率化を図ることができた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	情報公開ツールの拡充として公開型GISシステムを導入し、道路台帳情報などの地図情報をWEB上に公開しユーザーの利便性の向上を図った。また、その作業上必要であった用排水路台帳情報を窓口で閲覧しやすいよう簡易閲覧図を作成した。
令和３年度に見直しを実施している事項	公開型GISシステムに道路側溝や用排水路の情報を追加する検討を行い更なるユーザーの利便性を図る。また、道路占用の電子申請の検討、キャッシュレス決済の検討を予定。
今後見直しを検討する事項	今後も土木管理事務全般事業について、必要性、改善点、コスト面について検討を行う。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
申請書類に許認可事務が多いため、事務処理の電子化への対応に関して、コストに比べ事務の簡素化等に繋がらない場合も考えられる。	国・県・他市町の先進事例などをしっかり検討し、費用対効果も踏まえながら、研究していく。

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	282

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	道路維持修繕
事業目的	ライフラインである道路を安全で快適に利用できるよう適正に維持管理する。
事業内容	●事業の全体計画 ・地元要望に基づき、道路施設の維持修繕等を行い、施設の適正管理に努める。 ・道路面の穴ぼこ、側溝のふた割れ等危険な箇所は、速やかに修繕を行い、事故防止に努める。 ・舗装の劣化が激しく全面舗装が必要な道路は改修計画を立て、実施する。 ・地元要望に応じて防護柵等安全施設や街路灯の新設、維持修繕を行うことで、安心・安全なまちづくりに寄与する。 ●主な決算の内訳 〇道路補修 ・道路維持工事　203件　42,444,930円 ・舗装修繕工事　55件　69,845,600円 市道犬山41号線、市道犬山57号線、市道楽田東45号線など ・道路改修工事　3件　7,392,000円 ・舗装改修工事（幹線道路の計画的な舗装改修）　5件　39,381,100円 市道犬山富岡線、市道春日井犬山線、市道犬山今井上線、市道犬山今井中線など ・原材料費（常温合材、砕石、土舗装材）　2,182,110円 〇道路交通安全施設修繕 ・街路灯設置工事　10件　2,889,150円 ・道路安全施設修繕工事　40件　9,106,500円 ・道路照明灯更新工事　6件　1,353,000円 ・街路灯維持工事　52件　4,465,219円 ・ＬＥＤ道路照明灯借上料（令和２年度分）　1,775,520円 リース期間（平成30年12月1日～令和10年11月30日）
事業の成果・効果	ライフラインである道路を安全で快適に利用できるよう、地元要望や改修計画に基づき道路施設の維持修繕を実施した。

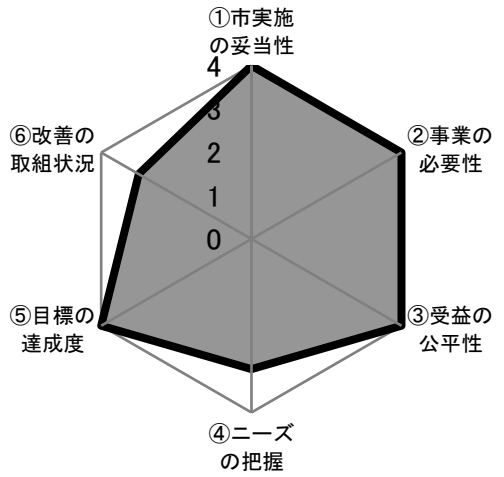
Ⅱ：個別事業内訳　（単位：千円）　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
道路補修	163,252	69,530	93,722	57%	3	3	3
道路交通安全施設修繕	20,585	0	20,585	100%	3	3	3
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	183,837	69,530	114,307	62%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		154,944	183,837	162,912
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	61,300	86,000
	その他	6,424	8,230	7,733
	一般財源	148,520	114,307	69,179
一般財源の割合		96%	62%	42%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法１６条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	毎年、地元から提出される土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	道路関係の地元要望に対する実施率は約67%で、当初目標値60%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	限られた財源内で、適切な維持管理を行うため、事業の緊急性・必要性などに、地元要望の優先順位を考慮しながら、実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	一般市道の舗装改修計画（令和２年度～１１年度）の見直し 幹線道路の舗装改修計画（令和３年度～７年度）を策定
令和３年度に見直しを実施している事項	舗装の劣化進行状況や他事業（水道・下水道等）との調整などによる、既存の舗装改修計画の見直し 他事業との調整による工事発注方法の見直し
今後見直しを検討する事項	側溝など舗装以外の道路施設についても、改修計画策定に向けた点検、現状把握の実施を検討

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
道路施設の老朽化対策	道路施設の老朽化は否めず、今後大規模な改修工事が想定されるため、改修計画策定に向けて基礎となる施設の点検、現状把握の実施を検討する。

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	282

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	道路施設等管理
事業目的	道路を安全で快適に利用できるよう清掃及び街路樹剪定や除草等による道路施設の維持管理を行う。
事業内容	●事業の全体計画 ・道路パトロールによる簡易な補修、路肩の除草、幹線道路の路面清掃、道路植栽帯の街路樹剪定、除草等を行い、道路を安全に通行利用できるよう適正に施設管理を行う。 ●決算の内訳 〇道路施設等管理 ・消耗品費（凍結防止剤、保安用品一式）　530,047円 ・道路作業業務委託(市内全域　道路パトロール・作業等)　9,295,000円 ・道路雪氷対策委託(市道名古屋犬山線外30)　1,722,924円 ・路面清掃作業委託(1・2級　道路路肩 年1回)　935,000円 ・側溝浚渫委託　624,800円 ・測量及び調査設計業務委託　1,925,000円 ・土のう回収委託(町内等による清掃の土砂等回収処分)　1,054,570円 〇道路植樹等管理 ・道路植栽帯管理業務委託(市道名古屋犬山線外35)　10,978,000円 ・道路除草委託　21,482,900円 ・街路樹剪定委託　7,029,000円 ・街路樹薬剤散布委託　181,500円 ・倒木処理・はみ出し枝処理委託　1,041,700円 ・街路樹診断業務委託　99,000円
事業の成果・効果	道路パトロールによる簡易な補修、路肩の除草、幹線道路の路面清掃、道路植栽帯については街路樹剪定、除草等を行い、年間通じて道路を安全に通行利用できるよう維持管理を行った。

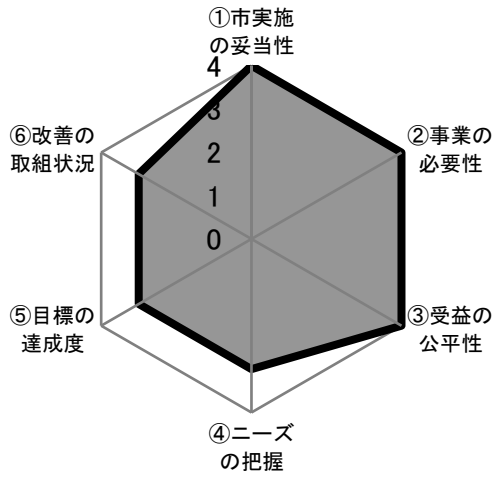
Ⅱ：個別事業内訳　（単位：千円）　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
道路施設等管理	16,088	0	16,088	100%	3	3	3
道路植樹等管理	40,813	0	40,813	100%	3	3	3
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	56,901	0	56,901	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		54,732	56,901	64,254
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	54,732	56,901	64,254
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法１６条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等を対象とした事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	毎年、地元から提出される土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	3	除草時期が遅くなったところもあるが、概ね予定どおりに年間の維持管理業務を行うことはできた。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、維持管理コストの検討等を考慮しながら実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	除草業務受注者が適切な時期に作業に入れるよう、作業量の分散化など発注方法の見直しを行った。
令和３年度に見直しを実施している事項	植栽帯の雑草繁茂により、見通しが悪く危険な交差点等については、土舗装材等による雑草抑制対策を進めるほか、密集した街路樹の間引き等を検討していく。
今後見直しを検討する事項	植栽帯の雑草繁茂により、見通しが悪く危険な交差点等については、土舗装材等による雑草抑制対策を進めるほか、密集した街路樹の間引き等を検討していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
道路の草刈りについては、高齢化等により地域のボランティア活動での実施が困難となったことなどにより、要望が増加している。	除草の回数を増やすことはコスト的に困難であるため、年1回の草刈りを効果的に実施できるよう、発注方法等の見直し検討をしながら進める。

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	282

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	駅前広場維持管理
事業目的	駅前広場施設の適正な維持管理により、利用者の安全を図る。
事業内容	●事業の全体計画 ・日常的な清掃業務や定期点検業務により発見された施設の不具合は、迅速に修繕を行う。 また、施設の長寿命化を図るため計画的に改修工事を行うなど、駅利用者が安全かつ快適に利用できるよう適正管理に努める。 ●主な決算の内訳 〇駅前広場管理 ・光熱水費（電気、水道、下水道）　3,145,481円 犬山駅前広場（東西）、楽田駅東広場 ・犬山駅東西連絡橋維持管理業務委託　1,468,280円 清掃管理、消防設備及び電気保守点検 ・犬山駅前広場維持管理業務委託　4,103,000円 清掃、除草、樹木剪定、花壇管理 ・犬山駅昇降機保守点検委託　2,014,320円 エスカレーター２基、エレベーター―２基 ・犬山駅前広場公衆便所清掃委託　982,080円 ・楽田駅東広場管理委託　699,500円 公衆便所清掃、広場管理 ・駅前広場維持工事　17件　1,692,614円 〇犬山駅東西連絡橋改修 ・犬山駅東西連絡橋点検業務委託（５年毎）　4,070,000円 ・犬山駅東西連絡橋改修工事（鉄骨・屋根塗装等）　9,329,650円
事業の成果・効果	・ゴミ拾い、清掃など日常的な維持管理については、直営および業務委託により適正に行った。 ・施設の老朽化による損傷及び故意による破損に迅速に対応した。 ・犬山駅東西連絡橋の定期点検（５年毎）を実施し、施設の健全度を把握した。 ・犬山駅東西連絡橋の改修計画に基づき、鉄骨・屋根塗装等を行った。

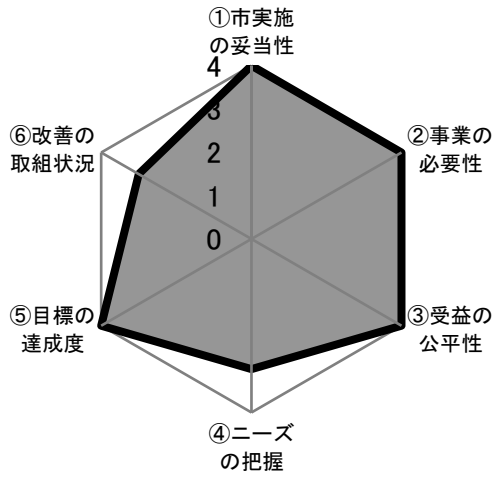
Ⅱ：個別事業内訳　（単位：千円）　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
駅前広場管理	15,211	650	14,561	96%	3	3	3
犬山駅東西連絡橋改修	13,400	0	13,400	100%	3	3	3
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	28,611	650	27,961	98%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		52,295	28,611	18,990
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	667	650	1,320
	一般財源	51,628	27,961	17,670
一般財源の割合		99%	98%	93%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	駅前広場は市管理地であり、市で維持管理を行う。
②事業の必要性	4	駅前広場利用者が、安全で快適に利用できるよう維持管理を行うことは、管理者として必須な事業である。
③受益の公平性	4	市の顔である駅前広場等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望等により、ニーズを把握している。
⑤目標の達成度	4	駅前広場の日常管理については、適正に行えた。 犬山駅東西連絡橋の改修計画に基づく屋根塗装工事が完了。 犬山駅東西連絡橋の定期点検（５年毎）が完了。
⑥改善の取組状況	3	予防保全的な補修工事を計画的に行うことで、ライフサイクルコストを軽減し、経費の平準化を図っている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	・犬山駅東西連絡橋の施設健全度を把握するため、定期点検（５年毎）を実施。 ・視覚障害者対応として、駅西階段に音声誘導案内を設置した。 ・東西連絡橋の空きスペースを活用した広告事業を実施し、広告収入を確保した。
令和３年度に見直しを実施している事項	犬山駅東西連絡橋の定期点検結果に基づき、改修計画（令和４年度～７年度）を策定する。
今後見直しを検討する事項	改修計画に基づき、工事を実施する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
・東西連絡橋の長寿命化 ・空きスペースの利活用検討	・東西連絡橋の経年劣化は否めないため、定期点検の結果に基づき計画的に改修工事を行い、施設の長寿命化を図る。 ・空きスペースの民間貸し等、新たな利活用を継続して検討していく。

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	284

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	交通安全総点検対策
事業目的	交通安全対策を計画的かつ継続的に実施し、子どもたちが安心して通行できる歩行空間の確保を推進する。
事業内容	●事業の全体計画 ・通学路の安全対策として「通学路交通安全プログラム」に基づき、計画的かつ継続的にグリーンベルト、カラー舗装などの整備を行う。 ・令和元年度に実施した園児移動経路の緊急点検の結果に基づき、防護柵設置、カラー舗装などの整備を行う。 ●決算の内訳 〇交通安全総点検対策 通学路安全対策工事　19,856,100円 ・市道犬山富岡線（犬山字北別祖地内外）：カラー舗装 ・市道一の宮線（羽黒新田字中屋敷地内外）：カラー舗装、グリーンベルト ・市道寺洞名荷線（善師野二丁目地内外）：グリーンベルト 園児移動経路安全対策工事　9,345,600円 ・市道犬山公園小牧線（星和苑から山の田公園交差点の間）：ガードパイプ設置 ・その他（12箇所）：カラー舗装、外側線設置など
事業の成果・効果	通学路・園児移動経路の安全対策工事の計画的な取り組みとして、令和２年度に予定していたグリーンベルト、カラー舗装、防護柵設置などの整備が完了した。

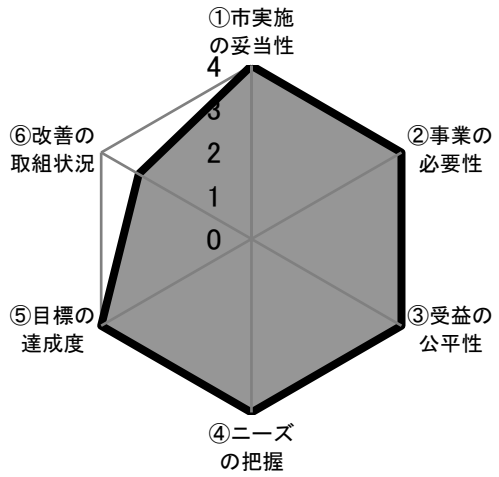
Ⅱ：個別事業内訳　（単位：千円）　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
交通安全総点検対策	29,202	25,900	3,302	11%	3	3	3
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	29,202	25,900	3,302	11%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		-	29,202	19,985
財源内訳	国県支出金	-	9,900	8,800
	地方債	-	16,000	10,000
	その他	-	0	0
	一般財源	-	3,302	1,185
一般財源の割合		-	11%	6%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法１６条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	交通弱者である未就学児、児童、生徒にとって安心・安全な歩行空間を確保できるよう安全対策を講ずるもので、必須な事業である。
③受益の公平性	4	通学路及び園児移動経路を対象とした事業であるが、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	4	年度毎に提出されるＰＴＡからの要望等により、ニーズを把握している。
⑤目標の達成度	4	令和２年度に予定していた安全対策工事は完了した。
⑥改善の取組状況	3	限られた財源内で、適切な維持管理を行うため、優先順位を考慮しつつ、事業の緊急性・必要性を判断し、実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	通学路の安全対策工事を計画的かつ継続的に実施できるよう、令和２年度から「交通安全総点検対策事業」を新規事業計上し、予算を拡充して取り組めるようにした。
令和３年度に見直しを実施している事項	「通学路交通安全プログラム」による実施事業の効果検証および事業実施計画の見直し
今後見直しを検討する事項	年度毎に、「通学路交通安全プログラム」により実施事業の効果検証および事業実施計画の見直し

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
通学路安全対策の推進	近年、通学路の安全対策として、グリーンベルトやカラー舗装の要望が増加しており、今後も学校関係者や地元地区、警察、道路管理者が連携して危険ヶ所を抽出し、既存の計画に見直しを加えながら進めて行く必要がある。

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	3	橋梁維持費	286

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	橋梁維持補修
事業目的	橋梁の維持補修を行う。
事業内容	●事業の全体計画 ・橋梁施設の安全確保のため維持補修等を行う。 ●決算の内訳 〇橋梁維持補修 ・橋梁維持修繕工事　　2件　496,100円
事業の 成果・効果	橋梁防護柵の維持補修を行うなど、安全に通行できるよう維持管理することができた。

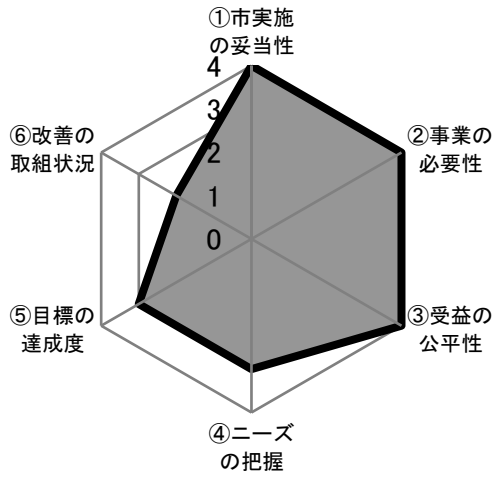
Ⅱ：個別事業内訳　　（単位：千円）　　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
橋梁維持補修	497	0	497	100%	2	2	2
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	497	0	497	100%	2	2	2

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		478	497	-
財源内訳	国県支出金	0	0	-
	地方債	0	0	-
	その他	0	0	-
	一般財源	478	497	-
一般財源の割合		100%	100%	-

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法１６条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	橋梁の適正な維持管理を行っていく上で事業の継続は必須である。
③受益の公平性	4	橋を利用する不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	年度毎に地元より提出される土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	3	地元要望には、ほぼ対応することができた。
⑥改善の取組状況	2	ほとんどが橋梁防護柵など安全施設の修繕であり、事務を効率化するため、令和３年度予算要求から「道路交通安全施設修繕」事業に統合し「橋梁維持補修」事業は廃止した。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	ほとんどが橋梁防護柵など安全施設の修繕であり、事務を効率化するため、令和３年度予算要求から「道路交通安全施設修繕」事業に統合し「橋梁維持補修」事業は廃止した。
令和３年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	特になし

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
特になし	特になし

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	2	河川改良維持費	286

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	河川施設管理
事業目的	準用河川、普通河川、法定外公共用物（水路・調整池等）及びその付属施設を健全に維持管理する。
事業内容	●事業の全体計画 ・準用河川、普通河川、法定外公共用物（水路・調整池等）及びその付属施設を健全に維持管理する。 ●主な決算の内訳 〇河川施設管理 ・電気料金（上坂公園調整池外12）　994,612円 ・高根洞工業団地水処理施設管理 点検・分析等　9,816,956円 汚泥処理　4,742,100円 調整池浚渫　3,999,600円 ・ポンプ保守点検（上坂公園調整池外8）　1,320,000円 ・杁・ゲート点検業務委託（稲葉用水路外8）　704,000円 ・樋管・樋門点検業務委託　40,700円 ・河川排水路維持管理委託（地元要望　草刈・浚渫等）　64件　20,875,800円 ・河川排水路維持工事（地元要望）　36件　11,993,190円 ・高根洞工業団地水処理施設維持修繕工事　867,900円 ・雨水貯留浸透施設設置費補助金　231,800円
事業の成果・効果	河川、排水路、調整池等において、施設の運転管理や保守点検、除草や浚渫など適正な維持管理を行った。

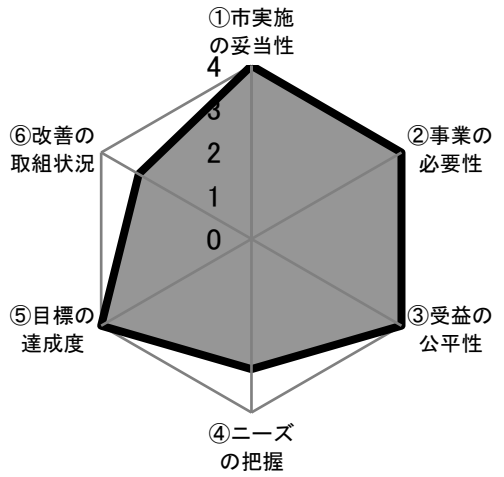
Ⅱ：個別事業内訳　（単位：千円）　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
河川施設管理	55,798	4,610	51,188	92%	3	3	3
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	55,798	4,610	51,188	92%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		50,281	55,798	67,922
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	11,900
	その他	4,013	4,610	4,409
	一般財源	46,268	51,188	51,613
一般財源の割合		92%	92%	76%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	犬山市法定外公共用物の管理に関する条例第２条の規定により、排水路等の管理は市が行う。
②事業の必要性	4	排水路等の適正な維持管理を行っていく上で事業の継続は、豪雨等への対策は市民生活の安全基盤の整備であり必須である。
③受益の公平性	4	市内全域の排水路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望書により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	水路関係の地元要望に対する実施率は50%で、年度当初目標値40%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	保守点検により、施設健全度を把握し、修繕計画を立て予算平準化しながら維持管理を進める。 地元要望については、緊急性など優先度を考慮し、事業を実施。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	過去からの懸案事項であった瑞泉寺地内の排水路存置について、土地所有者の龍泉院と調整を行い、改修工事の予算化。
令和３年度に見直しを実施している事項	瑞泉寺地内排水路の改修工事を実施する。
今後見直しを検討する事項	今後も事業の実施時においては、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
高齢化等の要因で、地元ボランティア活動による河川・排水路の日常管理（清掃・除草等）が難しくなっている。	張コンクリート・防草シート等による雑草繁茂抑制対策を実施する。 ボランティア活動への支援の在り方を検討する。

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	7	公園管理費	298

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	都市公園維持管理
事業目的	都市公園等を市民の健康維持、身近に自然とふれあう場や潤いのある空間、子どもたちの遊び場として、安心・安全に使用できるよう適切に維持管理し、市民に提供する。
事業内容	●事業の全体計画 ・都市公園等の清掃、除草、樹木剪定、公園施設の維持修繕など、安心・安全に使用できるよう施設管理を行う。 ●主な決算の内訳 ・都市公園等維持管理業務委託 清掃・除草・ゴミ等の処理など日常的な維持管理 町内会等委託：都市公園等134施設を77団体に委託　8,060,613円 業者委託：犬山丸の内緑地、石作公園、上坂公園　5,225,000円 アメニティ協会委託：内田防災公園外11施設　8,855,000円 ・木曽川犬山緑地維持管理業務委託　1,716,000円 ・犬山ひばりヶ丘公園維持管理業務委託　8,250,000円 ・山の田公園維持管理業務委託　1,045,000円 ・遊具保守点検業務委託（年6回）　2,222,000円 ・樹木剪定業務委託　20件　6,947,600円 ・除草業務委託　6件　5,010,500円 ・薬剤散布業務委託　759,000円 ・砂場抗菌処理業務委託　49,500円 ・倒木処理・はみ出し枝処理業務委託　7件　1,822,700円 ・砂場細菌検査業務委託　971,850円 ・花と緑のあるまちづくり事業委託（公園花壇等への花の苗植付・管理等）　2,970,000円 ・都市公園等維持管理工事（地元要望等）　70件　19,835,288円 ・公園灯ＬＥＤ化工事（犬山ひばりヶ丘公園）　3,883,000円
事業の成果・効果	・日常的な維持管理については、直営、委託業務、地域住民による愛護活動等により保たれている。 ・遊具等は年６回の保守点検により不具合の早期発見に努め、利用者の安全を確保している。 ・電気料金など維持管理費の削減を図るため、犬山ひばりヶ丘公園の照明灯３２基をＬＥＤ化した。

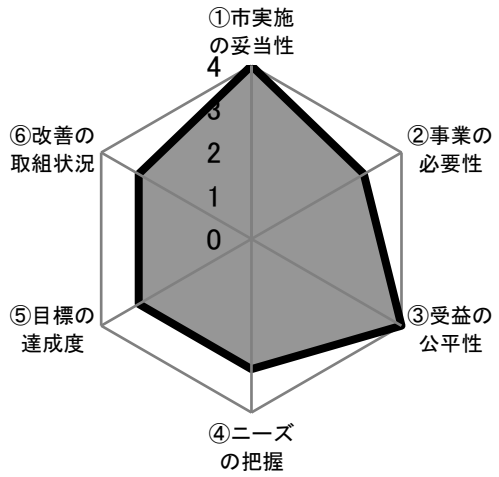
Ⅱ：個別事業内訳　（単位：千円）　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
都市公園維持管理	85,662	757	84,905	99%	3	3	3
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	85,662	757	84,905	99%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		88,683	85,662	88,671
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	3,400
	その他	835	757	755
	一般財源	87,848	84,905	84,516
一般財源の割合		99%	99%	95%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	行政財産であり、市が主体で管理するもの。
②事業の必要性	3	市民の日常生活に直結しているものではあるが、非常時においては、最低限の維持管理とし、要望事業の縮小もやむを得ない。
③受益の公平性	4	不特定多数の市民が利用し恩恵を受ける事業と考えられる。
④ニーズの把握	3	地元からの要望書により、利用者ニーズを把握している。ひばりヶ丘公園については、市民の他に近隣市町からの利用も多くあり、広く利用者のニーズを把握し応えていく必要がある。
⑤目標の達成度	3	公園要望に関する実施率は約88%で、年度当初の目標値80%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	地元要望に沿った計画と現場状況に応じた施工により、適切かつ効率的に事業を実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	電気料金など維持管理費の削減およびＣＯ2排出抑制を図るため、令和２年度から都市公園の照明灯のＬＥＤ化に着手した。（犬山ひばりヶ丘公園　３２基）
令和３年度に見直しを実施している事項	計画的な都市公園の照明灯のＬＥＤ化を推進する。 （石作公園　１９基、上坂公園　７基）
今後見直しを検討する事項	全ての都市公園の照明灯のＬＥＤ化を推進し、電気料金など維持管理費の削減を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
公園施設の老朽化	施設の老朽化は否めないため、利用者の安全確保には、今後大規模な修繕・改築・更新が必要となるが、利用率を勘案し、危険・不要となるものについては撤去も検討する。

令和２年度　決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	2	1	道路橋梁施設災害復旧費	374

部局名	都市整備部
課　名	土木管理課

Ⅰ：事業概要

施策事業名	道路橋梁災害復旧
事業目的	集中豪雨、台風など自然災害により被災した道路、橋梁施設を迅速に機能復旧する。
事業内容	●事業の全体計画 ・自然災害により被災した道路、橋梁施設の復旧に係る現地測量・調査及び設計等の委託業務 ・災害復旧工事の実施 ●決算の内訳 〇道路橋梁災害復旧 ・災害復旧事業工事請負費　　19件　5,062,200円 7月・9月の大雨及び台風14号（10月10日）により被災した道路の復旧工事 主なもの　道路へ流出した土砂の撤去・処分 損傷した道路の路肩、法面の復旧 道路への倒木の撤去・処分
事業の 成果・効果	集中豪雨、台風など自然災害により被災した道路を迅速に機能復旧することができた。

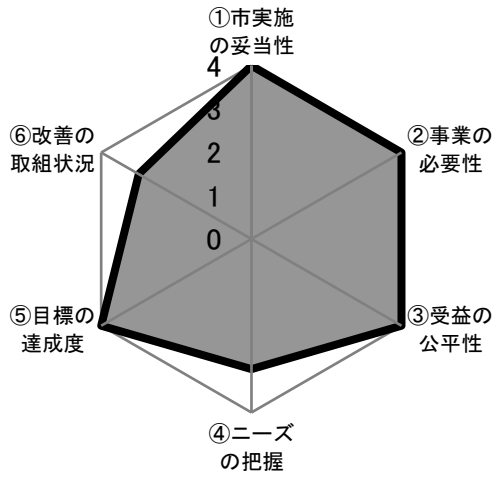
Ⅱ：個別事業内訳　　（単位：千円）　　（総見直し・総点検進捗評価は４段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
道路橋梁災害復旧	5,063	0	5,063	100%	3	3	3
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
－	-	-	-	-	-	-	-
合計	5,063	0	5,063	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況　　（単位：千円）

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		1,213	5,063	12,000
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,213	5,063	12,000
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価　（ＰＤＣＡサイクルのＣｈｅｃｋ）

評価の観点	評　価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法１６条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	災害復旧については、早急な対応を要望されている。
⑤目標の達成度	4	災害復旧という事業の性質上、年度当初に数値的な目標・計画を立てられない。今年度の被災箇所復旧については、迅速に対応することできた。
⑥改善の取組状況	3	復旧工法には経済的、効果的な工法の選択に努める必要がある。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検　（ＰＤＣＡサイクルのＣ→Ａ）

令和２年度に見直しを実施した事項	復旧工法には経済的、効果的な工法の選択に努める必要がある。
令和３年度に見直しを実施している事項	復旧工法には経済的、効果的な工法の選択に努める必要がある。
今後見直しを検討する事項	復旧工法には経済的、効果的な工法の選択に努める必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性　（令和２年度におけるＰＤＣＡの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課　　題	対応策・今後の方向性
被災箇所の早期復旧	関係機関、関係者と協議し、早期に着手し復旧を図る。 復旧工法には経済的、効果的な工法の選択に努める必要がある。